

草の根技術協力（地域活性型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	ブータン王国
2. 案件名	地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト フェーズ 2 ブータン王国における地域課題解決型学習（PBL for GNH）展開事業
3. 事業の背景と必要性	本事業のフェーズ 1において、チカラ県において PBL for GNH のモデルケースが創出されたことに加えて、教材や評価ツールが整備されブータンの他県に展開していくための準備が整っている。またブータン東部 エリア（タシガン県など）においては都市部への人口流出が深刻な課題となっており、地域課題解決型学習導入のニーズがある。本事業はブータン教育省の政策の方向性とも合致するものである
4. プロジェクト目標	PBL for GNH（ブータン版の地域課題解決型学習）がブータンで継続的に推進できる体制が構築されている
5. 対象地域	チカラ県、タシガン県、ルンツエ県、ペマガツエル県、パロ県
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	1. 教育行政職員 10 名：ブータン教育省の職員 6 名、ターゲットエリアの教育長 4 名 2. 大学教員 4 名：パロ教育大学の教員や職員 3. PBL 担当教員 40 名：ターゲットエリア 4 県から各 10 名の教員 4. チカラ県地域住民 30 名：地区長、民間事業者、ユースセンター、保護者など
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p>＜アウトプット＞</p> <p>1. PBL for GNH 推進部会が設立され、PBL for GNH を継続的に推進するための計画が策定される 2. PBL for GNH を実施するために必要な教員研修が開発され、パロ教育大学の教員養成インサービスプログラム及びブータン教育省の研修メニューに組み込まれる 3. 実践校教員による学び合いの場が創出され、PBL for GNH の好事例を共有し蓄積できるようになる 4. 地域住民と協働して PBL for GNH が実践され、PBL for GNH に対する地域住民の理解度が向上する</p> <p>＜活動＞</p> <p>活動 1-1 ブータン教育省、パロ教育大学などから推進部会のメンバーを 10 名選抜する。 活動 1-2 選抜された推進部会メンバーで事業を継続的に推進するためのビジョン策定と計画立案のための 2 日間のキックオフ合宿をパロ教育大学で実施する 活動 1-3 上記キックオフ合宿で策定したビジョンや計画をもとに、月 1 回の定例会議で具体的な課題を検討し、進捗のレビューを行う。必要に応じて海士町の専門家からも助言を行う 活動 1-4 推進部会のメンバー 5 名が海士町や島根大学を訪問。10 日間の研修で PBL 実践事例や推進体制を学び、地元住民とも交流を深める 活動 1-5 推進部会が本事業を継続的に推進するための計画や教員研修の実施方法を取りまとめ、事業 3 年目に開催する PBL for GNH シンポジウムで発表する</p> <p>活動 2-1 パロ教育大学と海士町のメンバーで、教員研修のガイドラインや教材を作成する 活動 2-2 東西のモデルエリアとなるタシガン県とチカラ県で、PBL for GNH 実践校教員を対象に、2 日間の教員研修を実施する。タシガン県で実施する研修には、ルンツエ県、ペマガツエル県の教員も参加する 活動 2-3 上記活動 2-2 の研修に参加した教員との振り返りを実施し、プログラムの改善ポイントなどを明確にする。また理解度、共感度についてのアンケート調査を実施する 活動 2-4 上記の研修プログラムの作成状況などをアウトプット 1 の推進部会と共有し、パロ大学の教員養成インサービスプログラム及びブータン教育省の研修メニュー（アクションリサーチプログラムなど）に組み込む</p> <p>活動 3-1 PBL for GNH を導入する実践校教員 12 名（各県 3 名）による PBL for GNH 研究会をアウトプット 1 に記載された推進部会の内部に設置する 活動 3-2 PBL for GNH 研究会をオンラインで定例開催する。教科学習やスカウトプログラムでの PBL 実践事例の共有や振り返りを行うとともに、好事例をまとめる 活動 3-3 島根県浜田市が実施する JICA 草の根技術協力事業（美術教育）と継続的に意見交換を行い、連携し、アートの視点を取り入れた PBL for GNH のモデルについて検討する 活動 3-4 PBL for GNH の実践校の教員がチカラ県に集まり、上記研究会の教員発表を通じて学び合う。またプロジェクト型学習の持続性や進化の可能性を対話する</p> <p>活動 4-1 前フェーズ対象チカラ県のパイロット 3 校（チカラ中央高校、ゲドウ高校、パクシカ中央高校）における教員研修（活動 2-2）の中で PBL 担当教員と地域住民の対話の機会を設定する 活動 4-2 パイロット 3 校に隠岐島前高校の教員、海士町役場の担当者が訪問し、海士町の地域連携型 PBL 実践事例を紹介する。またブータンの PBL for GNH の実践を学び、海士町や日本国内に還元する</p>
8. 実施期間	（西暦）2025年10月～2028年9月（3年0ヶ月）
9. 事業費概算額	59,650 千円
10. 相手国側実施期間	ブータン教育省（カウンターパート）、パロ教育大学（実施協力機関）
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	海士町
2. 主な活動内容	地方公共事業、国際協力事業

